○ HOUTTUYN 氏博物誌ニ就テ (岡田要之助)

HOUTTUYN ノ名ハ日本植物學史ニ關心ヲ有ツ程ノ人々ニトツテ決シテ耳新シイモノデハアルマイト信ズル。タダ併シソノ人ノ事蹟ニ就テ我國デハ餘リ多ク傳ヘラレタ所ガナイヤウニ思ハレルノデ少シ許リ書イテ見タイト思フ。

德川時代ノ初期中期ヲ通ジテ我國ニ於ケル植物學ノ樣相ハ勿論現在ノモノトハ全ク趣ヲ異ニシ、專ラ支那傳來ノ知識ヲ根幹トシテ、所謂本草學、物產學、名物學ノ範圍ニ於テ發展シ來ツタモノト考ヘラレル。然ル處此ノ期ノ終リニ近ヅイテ洋學ノ勃興スルト共ニ植物學ニ於テモ亦西歐ノモノヲ採入レル機運トナリ、之ヲ契機トシテ新天地ヲ開拓シタ結果ハ遂ニ明治時代ノ躍進期ヲ招來スルコトトナツタ。偖テコノ轉換期ニ當ツテ第一線ニ活躍シタ人々ハ宇田川榕庵、伊藤圭介、飯沼慾齋等ノ諸先覺デアツタガ、就中植物分類學記載學方面ニ於ケル飯沼慾齋翁ノ業績ハ特筆ニ値スルモノト云フベク、ソノ著『草木圖說』[1]ハ我國ノ近代植物學界黎明期ヲ飾ル劃期的ノ著述トシテ永ク傳ヘラルベキモノデアラウ。

此ノ書ノ我ガ植物學史上ニ占ムル意義ニ就テ牧野富太郎先生ノ言ヲ借レバ[2]

『慾齋飯沼翁ハ一代ノ偉人ナリ、其著草木圖說ハ一世ノ大著ナリ，翁ハ四面皆滔々タル本草流潮ノ時代ニ在テ、豫メ能ク時勢變遷ノ氣運ヲ察シ、疾クニ能ク草木記述ノ神髓ヲ解シ、卓然トシテ儕輩ニ抽キ、以テ此植物學的ノ圖說ヲ著ハス、是レ我邦アリテ以來、始メテ我邦人ノ學術的ニ草木ヲ分類記載セルモノニシテ、其着眼ノ非凡ナル誰レカ之ヲ偉大ナラズト爲シヤ、宜ナリ玆ニ五十年後ノ今日ニ至ルモ尙其著ノ實用ニ供セラレテ汎ク世ニ尊重セラルルコトヤ云云』。

而シテ此ノ名著ノ成ルニ當リ翁ノ參照セラレタ洋書若干ノ中ニ、特ニ多ク用ヰラレタノハ、本稿標題トシテ掲ゲタ所ノ HOUTTUYN 氏博物誌デアツタ。之ニ就キ再ビ牧野先生ノ言ヲ引ケバ[3]、

『書中著者能ク林氏ト記セリ是レ和蘭國「ホッツイン」氏 (F. HOUTTUYN) ノ著書ニシテ固ヨリ林氏卽チ「リンネ」氏卽チ (KARL von LINNÉ 卽チ CARL. LINNAEUS) 自身ノ著書ニアラズ唯「ホッツイン」氏ガ「リンネ」氏ノ學式ニ則テ以テ天物ヲ記述セルモノニシテ題シテ LINNAEUS Natuurlyke Historie ト云ヒ全部 34 卷[4]アリ 西曆 1761 年 (寶曆十一年) ヨリ同 1781 年 (天明元年)[5] ニ亙リテ同國「アムステルダム」府ニテ出版シタルモノナリ而シテ書中又其第一種，第二種，等ト云フハ原書中其植物ヲ列記セル順次ノ號數ナリ著者卽チ飯沼慾齋翁ハ主トシテ此書ヲ用ヰ以テ植物ノ洋名ヲ定メタリ而シテ其之ヲ定メントスルヤ其屬 (Genus) 種 (Species) ヲ搜索スルニ其間實ニ多數ノ時間ヲ費セシコト今ヨリ之ヲ想像スルニ餘リアリ 其僅ニ一行ニ記シ下シタル只一個ノ羅名 (ラテン名) 及ビ蘭名 (オランダ名) ヲ抽出センガ爲メニハ實ニ如何ニ長ク著者ヲ苦シメシカハ此ノ如キ事

1) 第一帙安政三年，第二，三帙文久元年，第四帙文久二年出版.
2) 增訂草木圖說，(明治 40 年，東京) 序.
3) 增訂草木圖說卷末ノ言.
4) 37 卷ガ正シイト思ハレル.
5) MERRILL 氏ニ依レバ 1785 (卽チ天明五年).

業ニ經驗アル人ノ直ニ首肯スル所ナリ 況ヤ當時ニ在テハ其參考ニ資スベキノ圖書固ヨリ少ナク今時ノ如ク幾多利便ノ典籍之レ無キヲヤ今日ニ在テ翁ノ定メシ名稱ヲ閲スレバ則チ其名ノ其實ニ副ハザルモノ甚ダ多シト雖ドモ當時ニ在テハ何人ト雖ドモ蓋シ之レ以上ニ出ヅルコト能ハザリシナルベク頭腦非凡ニシテ精力絶倫ナル飯沼翁獨リ能ク之ヲ爲セシノミ固ヨリ竟ニ本草式ヲ脱スルコト能ハザリシ伊藤圭介氏等ノ企及シ能ハザリシコトハ同氏等ノ著書並ニ言行ニ徴シテ今ヨリ之ヲ追想スルニ難カラズ此ノ如キハ眞ニ睹易キ事歴ニシテ印痕彰々敢テ春秋ノ筆ヲ俟タズシテ明ナリ 翁ノ齡既ニ知命ヲ過ギテ身老境ニ在リト雖ドモ奮テ能ク之ヲ遂グ其氣力ノ旺盛ナル壯者ト雖ドモ遠ク及バズ世ノ此書ヲ繙ク者翁ノ此勞ニ想到スルコト鮮シ故ニ特ニ之ヲ記シテ翁ノ努力セル一斑ヲ示スコト此ノ如シ』ト。

之ニ依テ見ルモ飯沼翁ガコノ劃期的ノ著述ヲ世ニ送ルニ就テ並々ナラヌ苦辛ヲ積マレタコトガ判ルガ，又其レガ HOUTTUYN 氏ノ著ニ負フ所ノ多イコトモ了解セラレルデアラウ。

偖テコノ HOUTTUYN 氏ノ名トシテ從來引用セラレル所ニ M. トスルモノト F. トスルモノトニアリ、聊カ疑問ヲ抱イテキタノデアルガ、一般的ノ人名辭書ニハ一向ニ見當ラズ LEUNIS: Synopsis der Pflanzenkunde[1), BAILLON: Dictionaire de Botanique[2) ノ如キ二三ノ植物關係書目デハ HOUTTUYN ノ名ヲ載セテハアルガ、纔ニ數行ノ記述ニ止リ、殆ドソノ如何ナル人ナルカヲ知ルニ苦シムノデアツタ。

然ルニ頃日圖ラズモ原寛氏カラ、近年 MERRILL 氏ガ何カ書イタモノガアル筈ナレバトテ態々鉤出シテ示サレタ。即チ A Critical Consideration of HOUTTUYN's New Genera and New Species of Plants, 1773–1783. ト題スル一篇[3) ニ就テ見ルニ上述ノ Natuurlyke Historie ニ載セタ新種名新屬名ヲ檢討セルモノデアルガ，併セテ HOUTTUYN 氏ノ經歴及ビ著書ニ就テ稍詳密ナル解説ガ加ヘテアル。此ノ雜誌ハ我邦デハ諸所ニ備ヘテアルガ、サリトテ世間一般ニ廣ク流布シテヰルモノデハナイカラ多數ノ讀者ニトツテ必シモ簡單ニ參照シ得ルモノデナイカトモ思フ。サスレバ玆ニ上記 MERRILL 氏其ノ他ノ記事ヲ參考トシテ略傳ヲ揭ゲルコトモ我ガ植物學史上ニ重要ナ一人物ノ俤ヲ偲ブ便リトモナルコトデアラウカラ下ニ些カ紹介ノ筆ヲ執ルコトトスル。

HOUTTUYN 氏ノ名ハ MARTINUS ト呼ビ 1720 年オランダ國ホールン(Hoorn) ニ出生、1798 年 4 月 27 日アムステルダム (Amsterdam) ニ歿シタ。日本流ニ數ヘテ七十九歳トナル。生涯ヲ通ジテ博物學ニ專心セシモノノ如ク、マタ小規模ノ博物館ノ如キモノヲ營ンデヰタラシイ。或ハ標本商ノ如キ事業ニ携ハツテヰタモノカトモ云ハレテヰル。彼ノ THUNBERG ガ日本ニ來タ時ノ費用ナドモ HOUTTUYN ガソノ一部ヲ負擔シテ居ルナドト云フコトガアルラシイ。1749年ニライデン大學ニ論文(Spasmologia spasmorum theoriam

1) 第 3 版第 3 卷 (1886) 附錄.
2) 第 3 卷 (1891).
3) Journ. Arnold Arboretum, 19 (4) : 291–375, 1938.